

第269回  
株式会社テレビ新潟放送網  
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成22年6月21日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
井伊 基之	委員	吉原 浩	委員
大久保 千春	委員	田村 明子	委員
尾畑 留美子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
常務取締役（放送統括）	奥野 富士郎
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長	竹石 尚史
報道制作局次長 兼 報道制作部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
合評番組プロデューサー	羽田 朗

事務局 海津 智洋 紫竹 聡子 水野 明子

## 4 議 題

### 1) 番組合評

#### 「NNNドキュメント」 10 『肝炎難民 カルテなきC型 肝炎患者』

[放送 : 10年6月20日(日) 25:35~26:05]

(説明 : 番組プロデューサー 羽田 朗)

### 2) 会社報告

①5月の視聴者の意見。 (報告 : 視聴者相談室長 海津 智洋)

②講じた措置、公表など定例の報告等。 (報告 : 事務局)

### 3) その他

## 5 審議の概要 (委員の意見)

会社側から、この番組は「肝炎難民」という刺激的なタイトルで、C型薬剤肝炎の患者を救済する特別措置法が成立したのが2年前であり、1万人以上いると言われている患者の中で救済されたのは僅かに留まっているという実態をお伝えしようとしたものであること。具体的には薬害であることを証明するために当時のカルテや医師の証言が必要であるという条件がありこれが壁となって「薬害」を証明できない人達が多くいるという実態を取材し番組化したものであることなどを報告した。

●タイトルがとても良かった。丁寧に長期間にわたって追いかけて、あまりでしゃばり過ぎず患者の皆さんの声を繋いでいく内容が好感度高かった。

●今の医療技術で薬害であることを証明する方法はないのか。保険の仕組みはどうなっているのか。実際に行政の窓口はどこになるのかなど、もし自分がこのような立場になったらどうしたら良いのだろうと考えさせられた。

●患者さん達の過去や現在の紹介映像が出てきて、長期間にわたって追いかけているために少し順番がわからなくなり混乱してしまうところもあった。取材時期をテロップなどで表示してくれると分かりやすかったと思った。

●秋にも裁判へ移行するという事なので、今後も取材で追いかけて行って欲しい。

●命に関わる大量出血に対して止血剤を用い、この止血剤で解決に繋がらない。助けようとして事故やミスが起こり、それを更に助けたいと思うのに次へ噛み合っていない。人はどうやっていったら最終的に不安から逃れられるのだろうと思った。

●5年以内にカルテで証明できる人しか救済できない救済法のあまりの不備さに驚いた。救える人と救えない人では明らかに救われない人が多く、患者同士を分断してしまうような法律をなぜ国会全員一致で成立させたのかという疑問と怒りを感じた。

●患者の入院、葬式の様子などを取材するのは拒絶する人も多いはずなのに、そこまでして患者の辛い思いを伝えたかったのかと思えたし、これらの取材を可能にしたのは患者側との信頼関係があったからだとも思った。

●患者さんを病気の時だけでなく、元気の時姿も映像として出していたので、すごく訴える力があつたと思った。

●患者さんのお子さんたちが立派で、自分たちだけの悲しみに終わらせないで今後も前向きに患者救済に向けて運動しよう

している点が見ていて応援したくなった。

●08年1月に福田首相が患者一律救済を宣言し、それがこの秋に患者側が集団提訴するという現在進行形の話が続いているということが良くわかった。

●まったく全員一律救済ということになっていない実態というのが初めてわかり、これほどまでに酷い実態なのかと思った。

●患者さんが週3回注射して、これまで14回入院して、治療費だけで500万円になるという細部にわたって具体的な表現があるため、話しが具体性をもった説得力のあるものになっていた。

●亡くなられてしまった患者さん達に、この番組を見てもらいたかったと思った。

●30年近い昔のカルテを手に入れることの難しさを患者の声を積み上げて立証していると思った。

●今後の救済法のあり方に大きなインパクトを与える番組であり是非とも政治家に見てもらいたいと思った。

●法律はきちんと運用されて救済の効果が出てこそ意味があると思うが、この番組がルールと実態のギャップの大きさを客観的に証明していると思った。

●今回は取材の対象が患者とその家族に集中していた。地域の政治家なども動いていたと思うが、それらをカットしてフォーカスを患者に絞り込んだところに意味があると思った。

●この番組は一連の起承転結の「起」の部分を訴えた番組かなと思う。そういう意味では難民を難民のままにしないために法の改正が必要であり、そのために何が必要なのか、誰がそれを実現するのか。そういう次のテーマをこの番組は暗に示していると思った。

- 病院や医師法によるカルテの保存期間がなんで普通の会社の決算書類のような扱われ方なのか、そのナンセンスさがなぜ許されているのかということを考えさせられた。
- 生体肝移植で提供者である息子さんが「おかん手術頑張っってよかったろ」と言われたところは暗いなかでも両方とも命がけの親子の絆、人間の絆を感じさせてくれました。
- この番組の続編を作るときは個々の患者だけでなく発生源となった国や製薬会社の責任などにも突っ込んで行って欲しい。
- 薬害の怖さを感じた。人間社会の中にあって薬害の広がりがある。薬害について様々に取り上げてきてその後どういうふうになっているのか、まだ情報としてフィードバックされていないものが多すぎると思う。今回の止血剤の薬害についても、こういう歴史をたどったと見届けるまで追いかけて取材して行って欲しい。

## 6 会社側の報告

- 1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

5月……128件。

- 2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成22年5月24日)から昨日(平成22年6月20日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取消し放送はありませんでした。

## 7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

- 1) 前回、第268回審議会では『僕らの学校に校歌が出来た～良寛さまの教えが生きている学び舎～』を審議いただ

きました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

## 8 今回の第 268 回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送しました。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載しました。

## 9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 5月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 5月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（5/23, 6/3, 6/13号）

以上